

全国で約6万件、県内で約6000件の相談。 後を絶たない被害を防ぐために。

配偶者、恋人など、親しい男女の間でふるわれる暴力―DV(ドメスティック・バイオレンス)。その被害が後を絶ちません。全国の配偶者暴力相談支援センターへの相談は年々増加し、平成19年度には6万2078件(5年前は3万5943件でした)。滋賀県内だけでも594件を数えます。被害者の心と体に深い傷を負わせ、時には生命も奪うDVは、許されざる犯罪行為です。被害の実態を知り、未然に防ぐための対策が強く求められています。

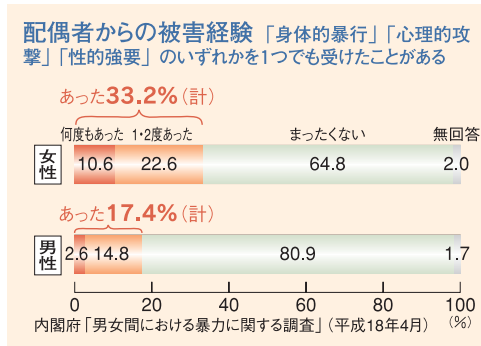
あなたの周りでも深刻な被害が…

知っていますか? DVについての真実 Q&A

さまざまな誤解が、DV被害の深刻さを見えにくくしています。まずは正しい知識を。

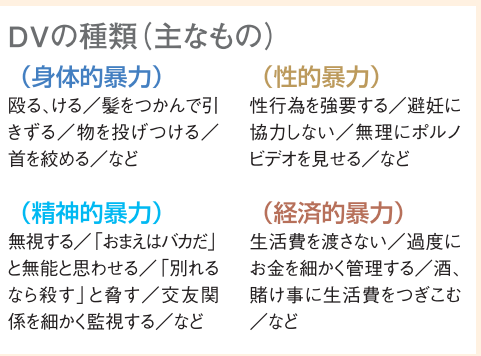
Q1 DVは、一部の家庭の問題じゃないのですか?

A1 3人に1人の妻が被害に。身近に起こっている問題です。



Q2 殴る、けるなど体に暴力をふるうのがDV?

A2 言葉で心を傷つけたり、精神的暴力もDVです。

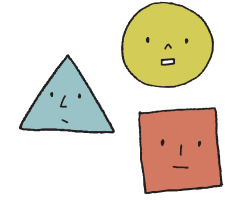


DVは、殴る、けるなどの「身体的暴力」だけではなく。心ない言動によって心を傷つける「精神的暴力」、嫌がっているのに性的行為を強要する「性的暴力」など、さまざまな暴力の形があります。

Q3 DVをするのは一定のタイプの人では?

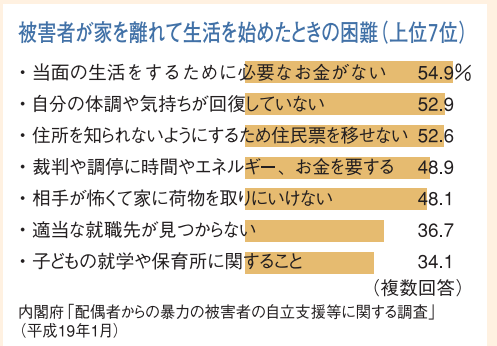
A3 タイプはさまざま。決まったタイプの人DVの加害者になるとは限りません。

DVの加害者は、学歴、年齢、職業、収入、社会的地位もさまざまで、決まったタイプはありません。普段は人当たりが良く、社会的信用がある人もいます。また男性だけでなく、女性が加害者になることもあります。



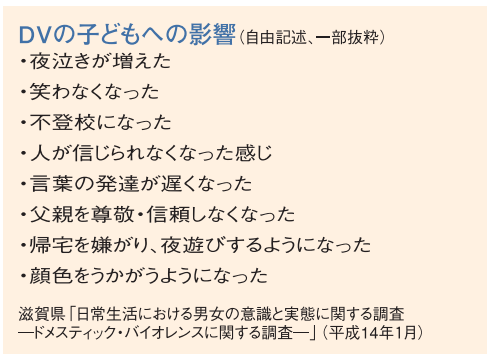
Q4 被害者は逃げればいいのか?

A4 逃げたくても、逃げられない事情があるのです。



Q5 子どもにも被害が及ぶと聞きましたが?

A5 子どもの健康と成長が大きく損なわれます。



暴力を受けたり、目撃したりすることで、子どもは深く傷つき、苦しみ、心の傷を受けます。また、感情表現や問題解決の手段として暴力を使うことを学んでしまい、その子自身、暴力を繰り返していく可能性があります(暴力の連鎖と再生産)。

DV被害者からの声

家も貯金も人間関係も自信も… すべてを失ってしまいました

自らもDV被害者で、約10年前、滋賀県で「シングルママハウス」はじめの1歩を設立し、被害者への支援を続けてきた宇野さんに、DV被害者の体験談を聞きました。

元夫は「こいつと結婚したら絶対苦労しないよ」と言われたほど会社や周囲での評判が良かった人なので、暴力を受けていることを周囲に話しても理解されませんでした。結婚後、言いつくを聞かないと殴ったり、行き先をチェックし行動を制限するなどの暴力が始まりました。一番ひどくなったのは長女が生まれ一軒家に引っ越したころ。夫は、

シングルママハウスはじめの1歩
代表 宇野勝美さん

シングルママハウスはじめの1歩では、DVに関する相談を受け付けています。
090-7105-7787(24時間ホットライン)
※留守番電話にメッセージご連絡先を入れてください。

床に牛乳をこぼした長男を「フローリングがはがれる」とたたいたり、子どもの前で私の首を絞めたり。毎日どのような言動が夫を怒らせるか分からないといった恐怖の中で過ごしていたので、自ら逃げ出す判断ができなくなっていました。

結婚4年目、夫がお風呂に入っているときに、もうすぐ3歳になるうかという長男が、妹のおムツを自分の小さなリュックに詰めだして、「ママ、今しかないから出て行く」と言ったのです。子ども2人を連れて逃げ出しました。夫の暴力は子どもにも深い傷を負わせていました。長男

は離婚後も、夫の愛車と同じ車種の車を見るだけで暴力を思い出すのか、おびえています。

離婚後、生計が苦しくても、なかなか両親にも頼れず、子ども2人を抱えて女手ひとつで必死に働きました。保育園のお弁当の材料が買えず、先生に作ってもらったり、コンビニで廃棄ハンをもらったことも。

DV被害者は、やっこの思いで夫から離れた後も、不安定な収入の中で一人での子育てを余儀なくされるなど苦しみます。住み慣れた家、貯金、地域や職場での人間関係、自信などすべてを失うのです。